

インドネシア バリ島のテニア症

山崎 浩¹ ワンドラ トニ² スロソ トーマス² 中尾 稔¹ 迫 康仁¹ 中谷 和宏³ 伊藤 亮¹

旭川医科大学 寄生虫学講座¹ インドネシア厚生省 感染症対策環境保健局²

旭川医科大学 医学部 附属実験動物施設³

演者らはアジア、とくにインドネシアにおけるテニア症・有鉤囊虫症に関する疫学的研究を行なっている。インドネシアは大小あわせて17,000以上の島嶼からなる国で、島によって宗教的、文化的背景を異にし、食生活習慣にも違いがみられることから、テニア症や有鉤囊虫症の分布が異なる。基本的にはイスラム圏であるが、ニューギニア島西部のパプア州（前イリアン・ジャヤ州）ではキリスト教徒が多く、豚肉食の習慣があることから有鉤囊虫症の浸淫地となっている。また、キリスト教徒が多く住むスマトラ島北部のある地域では、アジア条虫によるテニア症の流行が見られる。一方、国際的な観光地として有名なバリ島はヒンズー教徒の島であり、かつて有鉤囊虫症が流行していたことがあるが、最近では牛肉食による無鉤条虫症の流行が問題となっている。このようにインドネシアをはじめ、アジア地域においては無鉤条虫、アジア条虫、有鉤条虫の3種が分布している。今回、演者らはバリ島におけるテニア症調査で得られたテニア属条虫種のミトコンドリア遺伝子による同定、ならびにその条虫キャリアの糞便内条虫DNA検出を目的とした遺伝子検査を行った。バリ州の首都、デンパサール近郊の村で125名の住民を対象に行なった聞き取り調査によって32名が条虫キャリアと診断され、プラジカンテルを用いて駆虫を試みたところ、32名全員からテニア属条虫が排出された。これらの条虫片節より市販のキットを用いてミトコンドリアDNAを調製し、cytochrome *c* oxidase subunit 1遺伝子（*cox 1*）をターゲットとしたmultiplex PCRを行なった。その結果、駆虫された32個体の条虫については、827bpのPCR産物がすべてのサンプルで増幅されたことから、無鉤条虫と同定された。この結果はPCR産物の塩基配列解析によっても支持された。さらに、32名の条虫キャリアのうち10名の糞便より市販のキットを用いて条虫由来のミトコンドリアDNAを抽出し、multiplex PCRを行なったところ、無鉤条虫の鑑別マーカーである827bpのPCR産物が10名全員の糞便から検出された。今回のバリ島における調査では無鉤条虫のみ見出されたが、今後もPCRによる遺伝子検査を導入し、テニア症の流行状況を把握していく予定である。

Taeniasis in Bali, Indonesia

HIROSHI YAMASAKI

Dept of Parasitol, Asahikawa Medical College, Asahikawa, Japan